

2026年5月13日

株式会社パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス

2026年6月期 第3四半期決算説明会 質疑応答要旨

決算説明会における質疑応答（要旨）を記載しております。

ご理解いただきやすいように内容を一部加筆及び修正しております。

質問 1. 営業利益の実績が「計画通り」とのことですが、進捗状況について説明して欲しい。

- 3Q累計までの状況と4月の月次状況を踏まえて、計画に対しても順調に推移している。
- 中間決算時に「生活防衛意識の高まりに対応した施策を強めることで売上に傾斜する」と申し上げたが、その後の中東情勢の影響により、価格感度感がより一層高まったことに対して、機動的に価格戦略を実施したことで客数が増加し、売上高が計画に対して伸びている。
- 総利益率は価格戦略によって計画を下回っているが、総利益額は着実に拡大している。また、労働分配率を指標とした生産性も維持できており、全体としては計画通りに進捗している。
- 第4四半期以降は、毎日のように情報変化がある中東情勢の影響もあり不透明であるが、現時点では計画線上になると見ている。

質問 2. 中東情勢について、現時点で想定される業績・事業への影響があればお聞かせください。

- 全体の動向を踏まえると、今期における営業利益への影響は現時点では軽微である。今後も以下の情報をアップデートしながら注視する。
  - ① 仕入価格については、供給自体は維持できるものの、価格上昇リスクがあると認識している。
  - ② 商品調達そのものの供給が滞るリスクもあり、確保可能な商品については対応を進めているものの、不確実性が高く、当社でコントロールしきれない領域も存在すると考えている。
  - ③ 水道光熱費や物流、交通面の、特にエネルギー（原油）に関連する販管費への影響が想定されるが、販管費全体で一定の余力を持って対応することは可能と見ている。
  - ④ 免税売上の影響については、一部で減便は見られるものの、現時点で業績への影響は限定的である。航空便数（国別）や来客数の動向を継続的に確認している。

質問 3. 決算業績説明資料に記載がある「TAM 獲得に向けた現在位置と拡大フェーズへの移行」に関連し、成長ドライバーである新規出店について、MEGA 業態やロビン・フッドなどの各フォーマットで、出店戦略上の優先順位があれば教えて欲しい。

- 2027年6月期は新店と業態転換を合わせて、約40店舗の出店を見込んでいる。
- 今期は来期以降の出店拡大に向けた準備段階であり、店舗開発の体制強化に伴い人員も確保しており、特定の業態に優先順位を設けるのではなく、各フォーマットで出店を加速していく方針である。
- ピュアドンキは業態として確立しているが、ロードサイドを中心に全国で三桁規模の出店余地があ

2026 年 5 月 13 日

株式会社パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス

ると見ている。MEGAドンキは西日本以西のエリアでの拡大、ロビン・フッドは中京圏に留まらず関東圏での拡大、レールサイド型は一都三県での拡大など、業態ごとに重点エリアを設定して展開をする方針である。

質問 4. 新業態「ロビン・フッド」について、今後の店舗拡大に自信を持たれている背景や具体的な理由を教えてください。

- 初動において、商品構成の見直しと業態名の刷新による話題性で、商圈での認知が向上した。
- 既存顧客層の来店に加えて、狙っていた層であるニューファミリーや社会人や若年層の新規顧客層の獲得にもつながっている。これは再現性の観点でも一定の手応えを得ている。
- プロセスセンターを活用した生鮮の開発が進み、安定的かつ再現性の高い供給体制の構築が見えてきている。加えて、簡便ニーズへの対応により、生鮮全体で好調な販売実績を確認している。今後の改善余地を含めて、継続的な伸長が期待できると考えている。

以上